

西村副大臣ぶら下がり概要

日時：平成 25 年 12 月 8 日（日）18:21～18:28

場所：Grand Copthorne Waterfront Hotel

【質疑応答】

（記者）今日 1 日での交渉の進展は。

（副大臣）今日は会合 2 日目で、朝、アメリカとバイ会談を行い、他は、シンガポールとオーストラリアとバイ会談を行った。全体では、午前中は少数国会合が行われ、私は投資の分野に参加した。基本的に日本は投資をする側であることから、投資する企業の投資の保護になるような大きな方向性でいくつかの点で意見を申し上げた。前進をしたと思うので、そういう方向で TPP 全体がまとまるように思っている。

それから、個別の会合については、アメリカとの話は申し上げた通りで、まだかなりの隔たりがあるので、2 国間の懸案を議論したが、私からはアメリカに柔軟性をぜひ示してほしいということ強く申し上げた。この後は、引き続き継続して協議をすることになっている。事務的に少しやり取りをしているが、今日はフロマン代表とは会わない。この後夕食会があるので少し話はしようと思うが、2 国間は今日はできないので、明日以降の日程調整になる。まだ調整をしている。

また、シンガポール、オーストラリアとの会談では、個別の細かい内容は申し上げられないが、2 国間での考え方の相違のあるところは意見交換しながら、全体として進めていこうということで一致をした。

全体会で報告を受けたが、論点はそれなりに絞られてきつつある感じを持っている。少しずつであるが、前進をしているのだと思う。この後の夕食会も、社交の夕食会でなく、しっかり議論しようということになっているので、いくつかの論点について議論することになると思う。相当、各国とも気合を入れてやろうという雰囲気が出てきている。事務レベルの交渉を聞いても、少しずつは前進しているようなので、今晚、明日、ぜひ全体として妥結ということが言えるくらいまで行けるように努力したいと思う。

（記者）一部の参加国が、協議が難航している分野について決着を先送りして、部分的にでも合意をする可能性に触れているが、この可能性についてどう思うか。全体会でそういう話はあったか。

（副大臣）今日の全体会合も色んな議論があったが、とにかく残っている論点を詰めることでまとまっている。だからこそ、この後の夕食会でも議論しようということになっている。まだ、そういう一部諦めたようなことにはなっていない。今日、明日、徹底的に議論しようということ。

（記者）あと 2 日しかないが、日米が関税の分野で合意するには、お互い譲歩、歩み寄りが必要となってくると思うが、日本は最後まで 5 項目について譲歩はしないのか。

（副大臣）何度も申し上げているが、我々には国会の決議があるので、これを踏まえて交渉しないと、最終的にまとまっても国会で承認を得られないことになる。我々としては、ぎりぎりのところを示しているの、それを前提に何か更に知恵を出せるかということ

だが、これはアメリカ側に柔軟性を示してもらわないと、我々としては譲れないというところに来ている。

(記者) 最後の最後まで譲れないということか。

(副大臣) そうである。その通り。

(記者) オーストラリアやシンガポールもかなり高水準の自由化を求めてきていると思うが、これらの国に対しても決議を踏まえてというような方針を伝えたのか。

(副大臣) 我々としては、全体として、物品の関税の話だけでなく、ルールも含めて高いレベルのものを作ろうと、21世紀型のアジア太平洋の地域に自由な経済圏、貿易・投資のエリアを作ろうという志は、我々も持っているし、多くの国が共有してこの交渉をやっているので、その点を理解して我々も高いものを目指す。ただ、アメリカとの交渉を含めて、我々努力しているということを伝えているところである。

(記者) シンガポールやオーストラリアにも譲れないものは譲れないという姿勢を伝えているのか。

(副大臣) センシティブな品目があるということは、我々としてはしっかり伝えている。

(記者) アメリカの方から逆に日本に柔軟性を示してほしい、譲ってほしい、という要請はなかったのか。

(副大臣) 交渉なので、お互いに柔軟性を示そうじゃないかということは向こうも言うが、私から強く柔軟性を示してほしいということは申し上げた。

(記者) 投資の分野別会合に参加されて、ISDSが焦点になっていると思うが、それについて副大臣から何をなされて、具体的にどのように前進したか。

(副大臣) 具体的な内容は申し上げられないが、我々としては日本の企業がこのエリアで活動する際、特に投資をしたときにしっかり保護されることが大事なので、その保護される範囲をできるだけ広く取りたいということで、私からはそうした点の主張をしている。

(記者) その方向性になりそうか。

(副大臣) ここも色んな議論があるので分からないが、一定の前進はしていると思う。

(以上)